

大阪市立東洋陶磁美術館

〒530-0005
 大阪市北区中之島1-1-26
 (大阪市中央公会堂東側)

TEL: 06-6223-0055

FAX: 06-6223-0057

<https://www.moco.or.jp>



休館日 月曜日

開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで)

入館料

一般 1,400円(1,200円)、高大生 700円(600円)

※()内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)、
 大阪市在住の65歳以上の方は無料(証明書等提示)

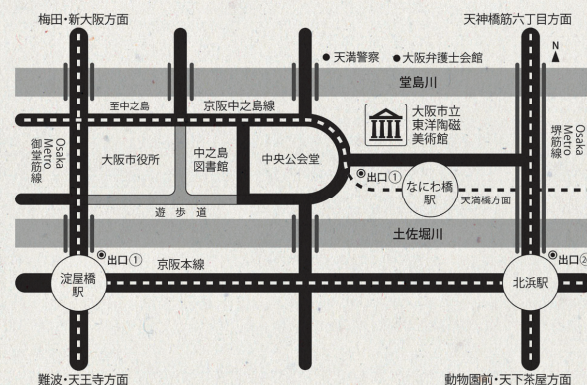
同時開催

【特別展】「黒田泰蔵」

【コレクション展】安宅コレクション中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクション韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、現代陶芸

アクセス

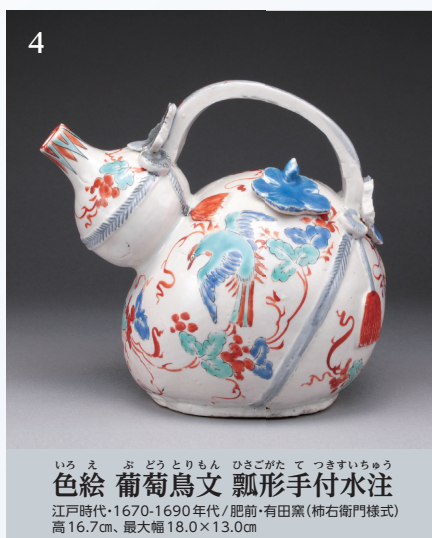
- ・京阪中之島線「なにわ橋」駅下車すぐ
- ・Osaka Metro 御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」、
 Osaka Metro 堺筋線・京阪本線「北浜」各駅から約400m



新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施しています。
 最新情報をホームページでご確認ください。



くられた器の種類は多様で、皿や鉢のほか、傾けた瓢箪に把手を付けたユニークな形の水注(写真4)もあります。本作では、器表に赤・青・緑の3色をバランスよく用いて翼を広げた鳥と葡萄文を配します。瓢箪の上下のふくらみに赤い房飾りのある青色の組紐をめぐらせた様子をあらわし、把手の付け根には葡萄の葉をかたどった装飾が貼りつけられています。下部のふくらみの上部には液体を入れるための穴があけられ、葡萄の葉の形の蓋がついています。立体感のある装飾が随所に施され、造形性豊かに仕上げられています。



色絵 葡萄鳥文 瓢形手付水注
 江戸時代・1670-1690年代 / 肥前・有田窯(柿右衛門様式)
 高16.7cm、最大幅18.0×13.0cm

本展は現在、後期展示を行っています。同時開催の特別展「黒田泰蔵」、コレクション展の作品とともに、「Yumezurasセレクション」の柿右衛門の魅力をお楽しみください。

大阪市立東洋陶磁美術館学芸員 巖由季子

※作品はすべて Yumezuras コレクション 撮影：野村淳



大阪くらしの今昔館

しろう ぎ ず 鍾馗図

大きくぎょろっと見開いた目、下唇をかみしめた表情。濃いヒゲと髪が逆立ち、右手には剣。いかにも怖そうなこの人物は「鍾馗」といいます。こちらの絵は墨江武禪という江戸時代の大坂の絵師が描きました。鍾馗は中国から疫病をはらう神として日本に伝わりました。男の子の健康と成長を願う五月の端午の節句には、鍾馗の絵を幟に描いて戸外にたてたり、五月人形として座敷に飾られました。一見怖い絵ですが、意味がわかると怖そうな顔も流行り病に打ち勝つ強さを感じられ、頼もしく見えてきます。

大阪くらしの今昔館 学芸員 服部 麻衣

※今回紹介した資料は、常設展示室にて6月中旬まで公開しています。最新情報はホームページにてご確認ください。

住所 〒530-0041 大阪市北区天神橋6-4-20 住まい情報センタービル8階
 TEL 06-6242-1170 FAX 06-6354-8601 ホームページ <http://konjyakukan.com/>
 アクセス ●Osaka Metro 堺筋線・谷町線、阪急「天神橋筋六丁目」駅下車、3番出口直結
 ●JR「天満」駅から北へ徒歩7分

「鍾馗図」(部分) 墨江武禪 (1734~1806)



大阪市立の博物館・美術館・動物園 **Osaka Museums** <https://ocm.osaka>

- 大阪歴史博物館 大阪城天守閣 大阪市立自然史博物館 大阪市立美術館 大阪市立東洋陶磁美術館 大阪市文化財協会
- 大阪市立科学館 天王寺動物園 大阪中之島美術館準備室 **大阪くらしの今昔館**